前立腺結核ノ統計及ビ手術例

(前立腺結核ノ研究 1.)

[泌尿生殖器結核ノ研究 第3回]

T. Itikawa und K. Kimura: Über Statistik der
Prostatatuberkulose und ihre Operationsfälle.

財団法人三井厚生病院皮膚科泌尿器科(主任 市川助教授)

部長 東大助教授 醫學博士 市 川 篤 二

醫員 東大副手 醫學士 木 村 浩 三 郎

I. 頻 度

過去11年間(自昭和6年6月至昭和17年5月)＝本院泌尿器科外來ヲ訪レテ前立腺結核ト診斷サレタ患者ハ247例デ、男子泌尿科患者總數18541例＝對シ1.33%, 男子泌尿生殖器結核患者712例＝對シテハ34.7%＝相當スル。男性生殖器結核452例＝對シテハ51.4%ヲ占メル。

II. 年 齡

此ノ247例ノ患者ノ年齢別ハ第1表ノ如クデアツテ、20代及ビ30代殊＝前者＝於テ最大多數ヲ占メル。

III. 既 往 症

(1) 結核性疾患 泌尿生殖器結核ノ總テガ然ルガ如ク、前立腺結核ノ成立＝對シテ、他臓器殊＝呼吸器ノ結核竈ノ存在ガ重要ナコトハ論ヲ俟タナイ。只是ヲ自覺シテ既往症トシテ供述スルカ否カハ自ラ別問題デ、茲＝頻度ノ差ヲ生ズル原因ガアル譯デアアルガ、今ハ單＝患者ノ供述＝從ツテ記載スルニ止メル。

則チ著者等ノ247例中既往症＝結核性疾患ヲ有スルモノ97例(39.6%)＝及ブ。而シテ該結核性疾患ヲ更＝細別スルト肋膜炎ガ70例アリ、是ハ97例中77.7%ヲ占メテ最モ多ク、次デ腹膜炎12例(13.3%), 肺結核8例(8.8%), 骨結核5例、關節結核及ビ淋巴腺結核ガ各1例宛アル。

肋膜炎：肋膜炎＝罹患シテカラ前立腺結核ガ起ルマデノ間隔ヲ比較の明確ニナシ得タル43例＝就テ記載スルト第2表ノ通りデアアル。

即チ2年、3年ガ最モ多ク、5年以内ヲ通算スルト27例(62.8%)ヲ占メル。

(2) 淋疾 淋疾ノ既往症ヲ明カニシ得タモノハ22例＝過ギズ、其ノ罹患ト前立腺結核發生迄ノ間隔ハ第3表＝示ス通りデアアル。

第 1 表

年 齢	症 例	百 分 率
1—10	0	0 %
11—15	1	0.4 %
16—19	23	9.3 %
20—29	110	44.5 %
30—39	79	32.0 %
40—49	28	11.3 %
50—59	4	1.6 %
60—69	2	0.8 %
70 →	0	0 %

第 2 表

肋膜炎罹患ヨリ前立腺結核發現迄ノ間隔	例 數
1 年	3
2 年	7
3 年	7
4 年	5
5 年	5
6 年	4
7 年	3
8 年	2
9 年	0
10 年 以 上	7

第 3 表

間 隔	症 例
1 年 以 内	1
3 年 間	5
4 年 間	2
5 年 間	5
6 年 間	1
7 年 間	2
8 年 間	1
9 年 間	0
10 年 以 上	5
計	22

第 4 表

結 核 嚢 ノ 部 位	症例數	173例ニ對スル百分率
前立腺+腎 臟	58	33.5%
前立腺+副睪丸	35	20.2%
前立腺+副睪丸+腎 臟	43	24.9%
前立腺+副睪丸+精 囊	15	8.7%
前立腺+副睪丸+精囊+腎臟	22	12.7%

Ⅳ. 合 併 症

247 例ノ前立腺結核患者悉クガ泌尿生殖器系ノ前立腺以外ノ部分ニモ結核病嚢ヲ有シテキル。即チ合併症トシテノ泌尿生殖器結核ハ100%ヲ占メル。

次デ肺結核 22 例(8.9%)、肋膜炎 4 例(1.6%)、尿道狹窄 2 例、會陰部尿瘻 1 例、膀胱直腸瘻 1 例、尋常性狼瘡 1 例、單睪丸症 2 例、「ヘルニア」2 例、尿管結石 1 例デアル。

胸部結核性疾患ハ若シタ「レ線」診斷ヲ應用スレバ、ヨリ一層高率ニナルデアラウト想像スルガ、上記ノ數字ハ單ニ打診、聽診ノ結果ニヨルモノデアル。

泌尿生殖器系内ニ於ケル合併症 單睪丸症 2 例モ注目ニ價スル所ノ同一系統内ノ合併症デアルガ、茲ニハ合併症トシテ 100%ヲ占メル所ノ泌尿生殖器結核ヲ觀察スル。

而シテ 247 例中記載ノ嚴密精確ナルモノ 173 例ニ就テミルノニ第 4 表ノ如クデアル。

以上ノ組合セヲ分析スルノニ前立腺ト精囊ノ兩者ノミガ侵サレタ症例ガ 1 例モナイコトが目立つ。之ハ初期精囊結核ノ診斷ガ容易デナイコトモ與ツテ力ガアルノデアラウ。

Ⅴ. 症 狀

著者等ノ 247 例中膀胱結核ヲ合併シテキナイモノ 55 例ヲ算スルガ、之等ノ中 41 例ハ全く無症狀デアツテ、多少症狀ヲ呈スルモノハ 14 例ニ過ギナイ。

此ノ 14 例ヲ含メテ症狀ヲ觀察シタ所次ノ通りデアル。記載ノ不明瞭ナモノハ採用シナカツ

第 5 表
大 サ

總 數	大 サ	例 數	百分率
171	著明ニ増大	21	12.2%
	通 常 大	112	65.5%
	縮 小	38	22.3%

第 6 表
表 面

總 數	性 狀	例 數	百分率
94	凹 凸 不 平	87	92.5%
	平 坦	6	6.5%
	著明ニ陥凹	1	1.0%

第 7 表
硬 度

總 數	硬 サ	例 數	百分率
201	硬 靱 部 ト 正常部トアリ	196	97.5%
	波 動 ア リ	5	2.5%

第 8 表
觸診ニヨル壓痛

總 數	訴 へ	例 數	百分率
63	壓 痛	6	9.5%
	不 快 感	47	71.5%
	無 シ	12	19.0%

第 9 表
其ノ他ノ症狀

總 數	症 狀	例 數
173	尿 混 濁	163
	頻 尿	166
	夜 間 頻 尿	90
	血 尿	74
	終 末 出 血	73
	發 熱	20
	尿 閉	4
	盜 汗	4
	排 尿 困 難	1
	殘 尿 感	3
	排 尿 痛	98
	終 末 疼 痛	76
	初 期 疼 痛	1
	終 末 不 快 感	2
	腎 臟 痛	10
	腰 痛	4
	膀 胱 痛	19
	尿 道 痛	1
	排 便 時 疼 痛	2
	陰 莖 痛	1
	會 陰 部 不 快 感	3
	肛 門 部 不 快 感	1

タノデ各項目毎ニ検査數が異ルガ止ムヲ得ナイ。

大サ(第5表)：即チ大サハ171例ニ就テ明記サレテキルガ、普通大ノモノガ最も多ク次デ縮小シタモノガ多く、増大シタモノハ最も少イ。

表面(第6表)：即チ表面ハ凹凸不平ノ狀態ガ最も多イ。

硬度(第7表)：硬度ハ大部分ノモノハ不平等デ軟骨様硬靱ヲ示ス部分ト通常ノ硬度ヲ示ス部分トガ混在シテキル。

觸診ニヨル壓痛(第8表)：

其ノ他ノ症狀(第9表)：

Ⅶ. 手 術 例

第1例 佐々木某，32歳，男子。(初診，昭和

16年2月3日)。診斷：左側副睾丸結核及ビ前立

腺結核。家族歴：特記スベキコトナシ。既往歴：3歳ノ時「ザフテリア」，27歳ノ時肋膜炎ニ罹患。現病歴：吾輩等ノ診療ノ前日他ノ醫師ニヨリ副睾丸腫脹ヲ指摘サレタモノデ何等自覺の苦痛ハナイ。現症：體格中等大，榮養比較的可良，胸腹部内景ニ異常ヲ認メナイ。血液所見：赤血球數537萬，血球素量70%（ザーヤー），白血球數6900，白血球ノ性狀ニ異常ヲ認メナイ。赤沈速度：1時間34，2時間77，24時間115。泌尿器科の所見：腎，尿管，膀胱部正常，陰莖正常，睪丸，副睪丸，精索モ右側ハ全ク正常デアルガ，左側ハ睪丸ニハ異常ハナイガ，副睪丸ハ全體トシテ拇指頭大ニ腫脹シテ硬ク，輕度ノ壓痛ガアル。前立腺大サ正常ナルモ表面凹凸不平デ硬靱デアル。尿所見：全ク清澄，酸性，性少ノ白血球及ビ上皮細胞ヲ含有スルノミニテ蛋白モ陰性。膀胱鏡検査：膀胱容量250，膀胱粘膜一般ニ正常，兩側尿管口モ全ク正常デアル。染色膀胱鏡検査：1%インデゴカルミン溶液5cc靜注ニヨリ右側ハ4'38"，左側ハ4'39"デ排泄開始シ，兩側共6'デ濃青色ヲ呈シタ。腎尿及ビ腎盂攝影像モ正常，水試験及ビ「フエノールズフオンフタライン」ニヨル總腎機能検査ノ結果モ亦全ク正常デアル。

手術：以上ノ所見ニヨリ2月12日左側副睪丸剔除及ビ會陰式前立腺剔除術ヲ施行シタ。

経過：副睪丸剔除創ニ就テハ述ベルベキコトナシ。會陰手術創ニハ手術後3日目ヨリ10%「ヨードフォルムグリセリン」ヲ注入シタ。手術後20日目ニハ血尿，排尿末疼痛ヲ訴ヘ，39°Cヲ越ス發熱ヲ見タガ5日連續シテ自然ニ消退シタ。手術後30日目頃ニハ手術創著シク縮小シ，分泌モ減少シタガ全治ニハ至ラナイノ深部療法ヲ施行シ，手術後約2月後ノ4月初旬ニハ完全ニ歩行シテ退院シタ。爾後通院シテ細イ瘻孔全治ニカメタガ中途廢療シタ。術後第70日目（4月23日）ニ撮影シタ尿道「レ線像」ハ第1圖ノ通りデアル。其ノ後診察スル機會（昭和16年10月，手術ヨリ8ヶ月後）ガアツタ所，手術創痕ノ中央部ニ毛髮大ノ瘻孔ガ1箇アリ，僅少ノ漿液性分泌物ガミラレルノミデ一般狀

態極メテ良好デアツタ。但シ性慾少ク勃起ハ不充分デアルト述べタ。

第2例 桐原某，45歳，男子。（初診，昭和16年2月10日）。家族歴：特記スベキコトナシ。既往歴：7歳ノ時左側肋膜炎ニ罹患。現病歴：昭和14年9月ニ初メテ血尿ガアツタ。其ノ後1ヶ月ニ1回位宛血尿ガアリ，凝血ノ爲ニ尿閉ヲ起スコトガアル。昭和15年10月頃カラ尿意頻數，排尿末疼痛及ビ排尿末出血ヲ來シタ。現症：體格中等大，榮養良シカラズ。左肺後下部ニ於テ呼吸音微弱ナル以外胸部ニ異常ナシ。血液所見：赤血球558萬，血球素量80%（ザーヤー），白血球數5300，白血球ノ性狀ニ變化ナシ。赤沈速度ハ1時間15，2時間32，24時間85。血液ノWtR，村田反應共ニ陰性。泌尿器科の所見：觸診上腎臟部ニ異常ナク膀胱部ハ多少壓痛ガアル程度デアル。外陰部モ全ク正常。直腸内觸診ニヨレバ精囊ハ正常デアルガ前立腺ハ表面凹凸不平デ硬イ。但シ大サニハ著變ハナイ。尿：2杯共強ク混濁シ，中性反應ヲ呈ス。檢鏡ニヨリ多數ノ白血球ト結核菌竝ニ少許ノ上皮細胞ガ認メラレル。膀胱鏡検査：容量80cc，膀胱粘膜一般ニ發赤シ，所々ニ膿性被覆ガアル。尿管口ハ兩側共外觀多少發赤シテキルガ收縮運動ハヨク保タレテキル。膀胱頸部ハ極メテ凹凸不平デアル。染色膀胱鏡検査：右側4'45"デ排泄開始シ，5'10"デ濃青トナル。左側ハ4'12"デ開始シ，6'50"デ濃青トナツタ。兩側腎尿正常，腎盂攝影像正常。總腎機能ハ「フエノールズフオンフタライン」ノ排泄ハ2時間合計45%デ良好トハイヘナイガ，水試験ノ成績ハ極メテ良好デアツタ。診斷：前立腺結核及ビ結核性尿道膀胱炎。尿道「レ線像」ハ第2圖ノ通りデアル。

手術：會陰式前立腺剔除術ヲ施行（昭和16年2月19日）。経過：術後3日目ニ37.7°Cノ發熱ト高度ノ血尿トヲ見タガ2日デ下熱シ，血尿モ漸次輕快シテ10日目ニハ消失シ，其ノ後ノ經過極メテ良好デ手術後15日目ニ再ビ尿道攝影法ヲ行ツタ第3圖ヲ得，19日目ニハ全治退院シタ。

（昭和18年7月1日 受付）

市川・木村論文附圖

第 1 圖

第 2 圖

第 3 圖